

特別支援学級で外国語活動に取り組んでみて

平成 23 年 4 月 3 日
旭川市立永山南小学校
中 川 麻衣子

児童の実態

私の担任する知的障害学級では、外国語活動のみならず、授業を行うにあたって次のような状況があった。

- ・ 集中力を持続するのが難しい。
→どのような活動でも、15分程度で児童の集中力が途切れてしまう。その間も、常に励ましや称賛の言葉がけや手助けが必要。
- ・ 情緒面の安定に時間がかかったり、その子なりの特別な方法を必要としたりする。
→交流学級の友達とのかかわりで起こったこと、家庭で起こった出来事、前時にあったトラブル、行事前の精神的な不安やストレスなどが原因で、授業に向かう体勢を整えるのに時間がかかる。そのときの気分によっては、保護者に連絡して早退する子もいた。一人で静かに過ごす時間を作ったり、好きなことをする時間を設けたりするなどの工夫をして、情緒の安定を図る必要があり、なかなか計画した授業時間を確保することができなかった。
- ・ こだわりが強い場合があるため、児童の特徴を知って好きなことや得意なことを活かし嫌なことを取り除く必要がある。
→テレビの画面やある一定の音に対し拒否反応を起こす児童がおり、ICTの活用にあたって工夫が必要であった。また、ものの位置や置き方、時間の設定などに強いこだわりがある児童がおり、小集団活動を組織するにあたって困難な状況が生じた。例えば、他の児童が活動の中で教室内の物や教材を移動しただけで、パニックを起こした子がいた。変化に慣れることができるようになるまでに1年ほどかかった児童がいた。1年かかっても適応できない児童もいた。一方、ほとんどの児童が英語の音声に対し興味を示し、好きな英語の曲は何度も何度もラジカセを自分で操作して聞いていた児童がいた。英語の動物絵カードでのカルタや神経衰弱遊びも人気で、カードを取る側より問題を出す役割をやりたいがった。

〈動物園を作ろう〉という実践

テレビの砂嵐や黒い画面にパニックを起こす、大型テレビやパソコン、プロジェクターが設置された教室への移動の困難さから、成美堂の「らくらくペン」を活用して外国語活動の授業を行うことにした。これらの教具は使い方も簡単で、子ども達自身がすぐに使うことができるようになり、教室を移動する

必要もなく活動の幅が広がった。しかし、ポスターは情報量が多く、私の学級の子ども達に興味を示して何とか活用できたのはアルファベットのポスターだけであった。

共同研究者の先生方からアドバイスをいただき、勝ち負けのないゲーム形式を取り入れること、視覚的に分かりやすい掲示の工夫やシンプルな活動内容、全員で一つの物をつくりあげる共同作業はできないかという視点から、「動物園を作ろう」という内容を計画し実践した。

これは、児童が順番に動物さいころを振り、出た動物を全員で英語で発音し、動物園に貼り付けていく、という活動である。動物は児童全員の好きな物にしぼり、「好きなもの」というさいころの目も作って選択肢が増えるように工夫した。その活動に入る前には、「らくらくペン」を使ってそれぞれの動物の発音の仕方や鳴き声などを学習していた。導入には、毎日聞いて踊っていた英語の曲で体を動かし、楽しい雰囲気を作るようにした。実践の中での課題は、動物を動物園に置く位置が原因のけんかや自分の好きな動物が他の子に出されてしまうことによるパニックだった。教師と児童二人だけの個別の実践や比較的興味・関心のあるものが似ている児童2～3名での活動は可能であったが、児童7人と担任一人での実践は、授業の目的から外れてしまい、実践した後の子ども達同士の関係の修復や一人一人の気持ちを安定させて次の活動へ切り替えるための負担が大きくなってしまった。

終わりに

一年間の実践を通してみて、

- 児童は、英語の音声やリズムに関心を示し、楽しむことができた。
- 児童一人一人を見ると、一年間で英語の単語が言えるようになったり、順番を守れるようになったりするなどの成長が見られた。
- 一つの物を作るという活動を通して、児童同士のかかわりが増え、互いのことをよく知り合うことができた。

こうした成長を促すためには、児童一人一人の実態をよく理解して活動を仕組む、1年、いえそれ以上の長いスパンで実践し児童の変容を見て軌道修正する、支援の人員を多くして個別の励ましや意欲を高める言葉がけを多くする、活動することが可能な2～3人の小集団に児童を分ける、などのことが必要であると思う。

児童の中には、英語の音を聞き取っておもしろがって発音したり、リズムに乗って踊るのが大好きであったり、1曲を飽きずにずっと聴いていたりした子がいた。日本語の単語や曲では、そのような反応が見られなかったことから、外国語活動を授業に取り入れることは、何らかの有効性があると考ええる。児童一人一人をよく理解している担任の教師が中心となって、長い期間をかけて根気強く実践し、児童の変容をもとに授業を組織すれば、必ず子ども達の成長に好ましい結果が出ると思う。

特別支援学級担任の経験もなく、力不足の私に、このような実践の機会を与えていただいたことに感謝しております。共同研究者の先生方には、様々な方面からのアドバイスをいただき大変参考になりました。ありがとうございました。